

App Bridge Windows Agent プロキシ設定ガイド

Ver. 1. 19. 0

目次

1. 本書の役割	1
2. プロキシサーバ設定画面	2
2.1 プロキシ情報の設定	2
2.2 プロキシ設定画面の表示方法	2
3. プロキシサーバ情報の設定	3
3.1 プロキシサーバを使用しない場合	3
3.2 プロキシサーバを手動指定する場合	3
3.3 プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ場合	3
3.4 プロキシサーバを PAC ファイルで決定する場合	3
4. 認証情報の設定	4
4.1 プロキシサーバが認証を必要としない場合	4
4.2 プロキシサーバがクリアテキスト認証を必要とする場合	4
4.3 プロキシサーバが Windows 統合認証を必要とする場合	4
5. Internet Explorer から引き継がれる設定情報	5
5.1 引き継がれる設定	5
5.2 Internet Explorer 設定情報の優先順位	5
5.3 プロキシサーバの自動検出動作	5
5.4 WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service	6
5.5 .NET Framework による Internet Explorer 設定のキャッシュ	6
5.6 サービスログオンアカウントの変更	6
6. サービスログオンアカウントの変更方法	7

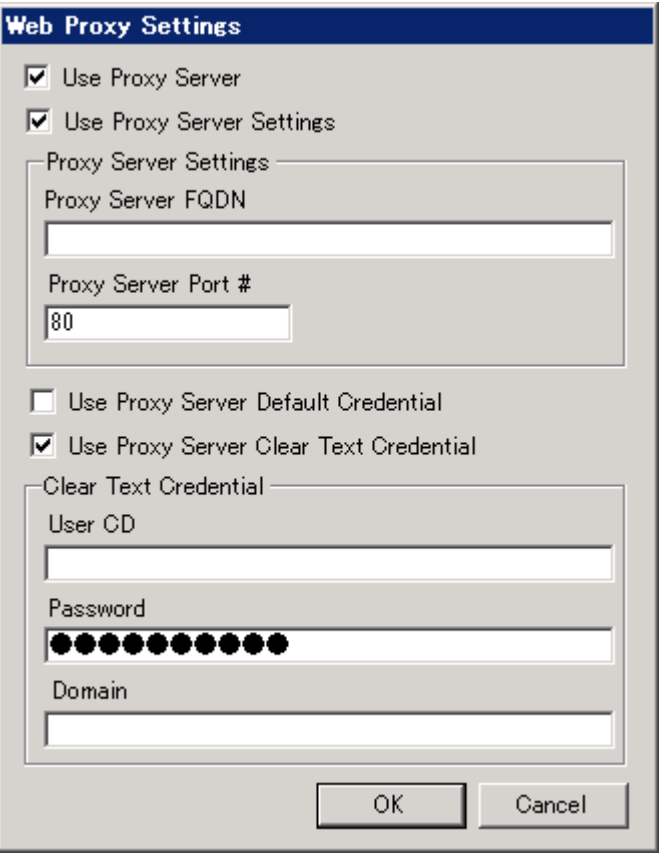
1. 本書の役割

本書は、App Bridge Monitor、App Bridge Kicker、App Bridge Transporter の Windows Agent に対するプロキシ設定方法について説明するものです。

2. プロキシサーバ設定画面

2.1 プロキシ情報の設定

App Bridge センタへの HTTPS アクセスにプロキシサーバを経由する場合、プロキシ設定画面を表示し、プロキシ情報を設定して下さい。設定された内容は保存され、App Bridge Windows Agent の全サービスで使用されます。

A screenshot of the 'Web Proxy Settings' dialog box. It has a title bar with the text 'Web Proxy Settings'. Inside, there are several sections. The first section has two checked checkboxes: 'Use Proxy Server' and 'Use Proxy Server Settings'. Below these is a group box labeled 'Proxy Server Settings' containing two text input fields: 'Proxy Server FQDN' (empty) and 'Proxy Server Port #' (containing '80'). The second section has two checkboxes: 'Use Proxy Server Default Credential' (unchecked) and 'Use Proxy Server Clear Text Credential' (checked). Below these is a group box labeled 'Clear Text Credential' containing three text input fields: 'User CD' (empty), 'Password' (filled with 12 dots), and 'Domain' (empty). At the bottom right are 'OK' and 'Cancel' buttons.

設定に必要な各種情報については、該当ネットワークの管理者にご確認下さい。

2.2 プロキシ設定画面の表示方法

プロキシ設定画面の表示方法を以下に示します。

App Bridge サービス	プロキシ設定画面の表示方法	
App Bridge Monitor	スタートメニューから「App Bridge Monitor」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「Setting」-「Proxy...」を選択します	
App Bridge Kicker	スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「File」－「Proxy...」を選択します	
App Bridge Transporter	スタートメニューから [App Bridge API]→[API Configuration] を選択し、表示された画面で [Proxy] ボタンをクリックします	

3. プロキシサーバ情報の設定

HTTPS アクセスにプロキシサーバを使用するか、使用する場合プロキシサーバ情報をどこから取得するかを設定します。

プロキシサーバ情報	Use Proxy Server	Use Proxy Server Setting
プロキシサーバを使用しない	チェックオフ	—
プロキシサーバを手動設定する	チェックオン	チェックオン
IE 設定情報から引き継ぐ	チェックオン	チェックオフ

3.1 プロキシサーバを使用しない場合

プロキシサーバを使用しない場合は「Use Proxy Server」をチェックオフとして下さい。

3.2 プロキシサーバを手動指定する場合

使用するプロキシサーバを手動で指定する場合は、「Use Proxy Server」をチェックオン、「Use Proxy Server Setting」をチェックオンとし、「Proxy Server Setting」にプロキシサーバの FQDN（または IP アドレス）とポート番号を設定して下さい。

3.3 プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ場合

使用するプロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ場合は、「Use Proxy Server」をチェックオン、「Use Proxy Server Setting」をチェックオフとして下さい。

本設定による効果、注意点については後述の「Internet Explorer から引き継がれる設定情報」をご覧下さい。

プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ機能は、.NET Framework が提供するものであり、Windows、IE、.NET Framework のバージョン及び利用環境により、引継ぎ情報が異なる場合があります。このため、App Bridge としては、本設定を非推奨としており、可能な限り、プロキシサーバの手動指定をご利用下さい。

3.4 プロキシサーバを PAC ファイルで決定する場合

PAC ファイルには直接対応していません。使用するプロキシサーバを PAC ファイルで決定したい場合には、IE 設定情報に PAC ファイルを設定し、前項に従って IE 設定情報を引き継いで下さい。

4. 認証情報の設定

プロキシサーバを使用する場合、プロキシサーバが要求する認証情報を設定します。

プロキシサーバの認証方式	Use Proxy Server Default Credential	Use Proxy Server Clear Text Credential
認証不要	チェックオフ	チェックオフ
クリアテキスト認証	チェックオフ	チェックオン
Windows 統合認証	チェックオン	チェックオフ

4.1 プロキシサーバが認証を必要としない場合

プロキシサーバが認証を必要としない場合は、「Use Proxy Server Default Credential」をチェックオフ、「Use Proxy Server Clear Text Credential」をチェックオフとして下さい。

4.2 プロキシサーバがクリアテキスト認証を必要とする場合

プロキシサーバがクリアテキスト認証を必要とする場合は、「Use Proxy Server Default Credential」をチェックオフ、「Use Proxy Server Clear Text Credential」をチェックオンとし、「Clear Text Credential」の各種情報（ユーザ ID、パスワード、ドメイン）を設定して下さい。

4.3 プロキシサーバが Windows 統合認証を必要とする場合

プロキシサーバが Windows 統合認証を必要とする場合は、「Use Proxy Server Default Credential」をチェックオン、「Use Proxy Server Clear Text Credential」をチェックオフとして下さい。

Windows 統合認証とは、現在 Windows にログインしているアカウントで認証するものです。このため App Bridge Monitor の各サービスで Windows 統合認証を使用する場合、サービスログオンアカウント情報を変更する必要があります。サービスログオンアカウントの変更方法は、後述の「サービスログオンアカウントの変更方法」をご参照下さい。

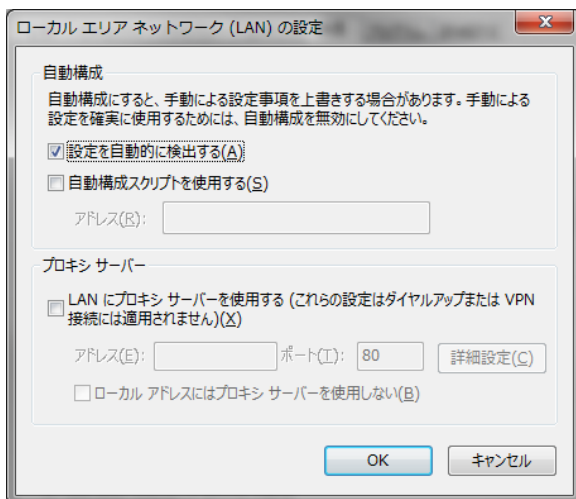
5. Internet Explorer から引き継がれる設定情報

Internet Explorer（以下 IE）から引き継がれる設定情報を参考情報として掲載します。掲載した内容は、調査時点の Windows、IE、.NET Framework の動作を示すものであり、当社で内容を保証するものではありません。予めご了承下さい。

プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ機能は、.NET Framework が提供するものであり、Windows、IE、.NET Framework のバージョン及び利用環境により、引継ぎ情報が異なる場合があります。このため、App Bridge Monitor としては、本設定を非推奨としています。可能な限り、プロキシサーバの手動指定をご利用下さい。

5.1 引き継がれる設定

IE 設定情報から引き継がれるプロキシサーバ情報は、下記の「ローカルエリアネットワークの設定」で設定される全ての項目です。



5.2 Internet Explorer 設定情報の優先順位

IE 設定で、複数の項目をチェックオンとした場合、「設定を自動的に検出する」→「自動構成スクリプトを使用する」→「LAN にプロキシサーバを使用する」の順で評価されます。

5.3 プロキシサーバの自動検出動作

「設定を自動的に検出する」の動作は以下のとおりです。

- ① DHCP サーバから自動構成スクリプトが格納されている URL の取得を試みます
- ② ①に失敗すると“wpad”というホスト名を DNS へ問い合わせ、“/wpad.dat”というファイルの取得を試みます
- ③ ②に失敗すると“wpad”というホスト名を NetBIOS 名で検索し、“/wpad.dat”というファイルの取得を試みます

※

一連の自動検出動作では、複数のネットワークアクセスが発生します。このため、プロキシサーバの自動検出を不用意に実行させるとパフォーマンスに影響する可能性があります。

5.4 WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service

「設定を自動的に検出する」及び「自動構成スクリプトを使用する」は、Windows にインストールされている「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」が実行し、結果をキャッシュします。

キャッシュは「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」が起動している間保持され続けます。例えば、「自動構成スクリプトを使用する」をチェックし、PAC ファイルの URL を設定していた場合、PAC ファイルの内容を変更しても、「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」が起動している間は内容が反映されません。PAC ファイルの変更を反映するためには、「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」を再起動する必要があります。

なお、これらのキャッシュ動作は、「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」を起動しない（サービススタートアップの種類を無効に変更）することで無効化できます。しかし、この設定は OS 全体に影響し、パフォーマンスに影響する点を考慮して下さい。

5.5 .NET Framework による Internet Explorer 設定のキャッシュ

.NET Framework は、IE 設定情報から取得した内容をプロセスごとにキャッシュします。IE 設定情報からの情報取得及びキャッシュは、プロセス起動後、任意のタイミングで実施されます。

このため、IE 設定情報の変更を App Bridge Monitor Agent に反映したい場合、Service Control を使用し、App Bridge Monitor の全サービスを再起動する必要があります。

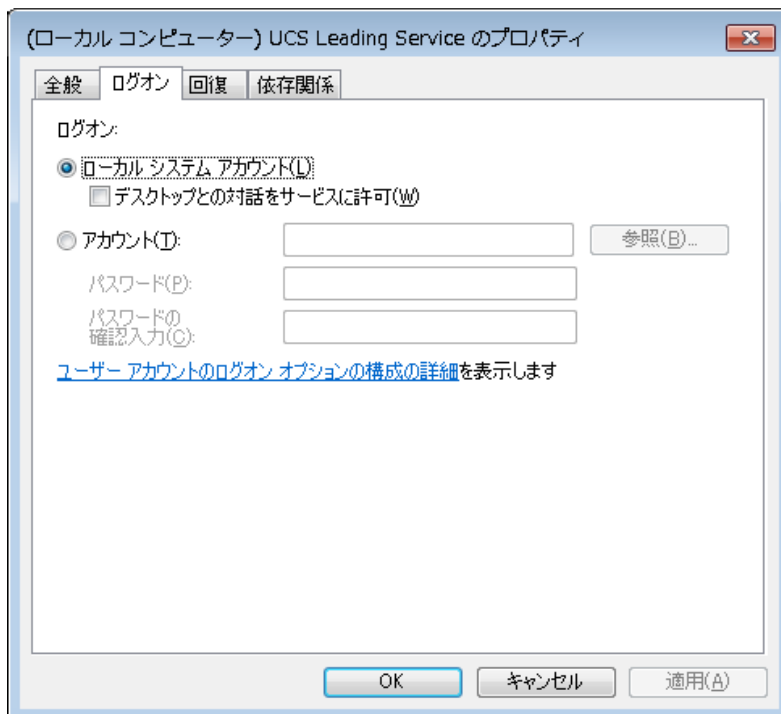
5.6 サービスログオンアカウントの変更

IE 設定は Windows にログオンしているアカウントのユーザ情報として保存される点に注意して下さい。このため、プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ場合、App Bridge Monitor の各サービスでサービスログオンアカウントを変更する必要があります。サービスログオンアカウントの変更方法は、後述の「サービスログオンアカウントの変更方法」をご参照下さい。

6. サービスログオンアカウントの変更方法

IE 設定情報の引継ぎ、Windows 統合認証の対応を実施する場合、App Bridge Monitor Agent のサービスログオンアカウントを変更する必要があります。

Windows サービスの実行アカウントを変更するためには、管理ツールのサービスで対象のサービスを選択し、ログオンタブの設定を変更します。



変更対象のサービスは以下のとおりです。

- UCS Agent Service
- UCS Condition Service
- UCS Leading Service
- UCS Watch Service

なお、App Bridge Monitor Windows Agent は実行に管理者権限を必要とするため、指定するアカウントを Administrators グループに所属させる必要があります。